S	芸術学研修 芸術学フィールドワーク	科目コード： 51113
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※a,bの2日程開講。受講される場合は、いずれかを選択、履修してください。	
開講日程・開講地・定員	芸術学研修(芸術学フィールドワーク)a 開催日程：2019年6月22日（土）～ 2019年6月23日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：55 芸術学研修(芸術学フィールドワーク)b 開催日程：2019年5月25日（土）～ 2019年5月26日（日） 開催地：東京・神奈川■、受講料： ￥10,500、定員：40	
担当者	a：金子典正*、梅原賢一郎（京都）、b：三上美和*、池野絢子（東京・神奈川）	

科目概要と到達目標

今年度、新たに入学された皆さんを主たる対象として開講するスクーリングです。在学生の参加も歓迎します。場所はそれぞれ京都、関東（東京・神奈川）です。現地を訪れて様々な芸術作品に接しながら、作品に対する観察力を養い、それに関わる多様な視点を教員・学生間で共有します。作品の置かれた場所に佇み、制作者や制作年代といった芸術史上の問題、その場所の意味など、芸術とどのように向き合うかをじっくり考えてみてください。到達目標は、芸術に関する知識を深めるとともに現地を訪れることの重要性を体感し、芸術学的なものの見方や考え方を育むことです。また日ごろ顔をあわせることが少ない学友との交流や、情報交換の絶好の機会にもしてください。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に参加しているか
3. レポートの文章表記は正しいか
4. レポートで論理的な議論の展開ができているか
5. レポートに独自の視点や新しい知見が認められるか
6. 文献などの資料・情報を活用できているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
科目の成績は授業への取り組み・スクーリングレポートにより評価します。

予習・復習

講義前に参考文献などを読んで、見学先について理解を深めるようにしてください。講義後は見学中のメモや参考文献をふりかえり、講義内容を整理してしっかり復習してください。学んだことを活用して次の学びのステップに進んでください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし

参考文献・URL	a：山根有三編『日本古寺美術全集25三十三間堂と洛中・東山の古寺』（集英社、1981年） b：なし

授業計画

【a日程（京都）】
6月22日（土）　瓜生山キャンパス
　3講時　ガイダンス
　4講時　講義
　5講時　講義

6月23日（日）　学外研修
　9：30 ～　三十三間堂と養源院を見学
　13：20 ～　南禅寺界隈の庭園を見学
　17：00頃　南禅寺界隈にて解散予定

● スクーリングレポート
1．課題　：今回のスクーリングで見学した寺院あるいは彫刻、絵画、庭園など、どれか一つ選んで作者、制作年代、様式など、何かテーマを絞って自由に論じてください。なお、レポートの最後に参考文献を明記すること。参考文献はインターネットのHP、URLは不可とする。
2．書式・文字数：ヨコ書き（テキスト科目のレポートの書式に準ずる）1,200字程度
3．提出形式（郵送・窓口提出）：スクーリングレポート表紙とレポート本文をホチキス留めしてください（添削指導評価書は不要）。
4．提出締切日　：a（京都）7月10日（水）【必着】※airUから提出する場合は締切日13：00【必着】
5．提出先　：郵送提出「通信教育部スクーリングレポート受付係」宛
　窓口提出　瓜生山キャンパス人間館中２階 通信教育部事務局窓口
　（提出締切日の受付時間内）
　※airUから提出する場合は、airUマイページのシラバスで「事後課題」の記載もあわせてご確認ください。

【b日程（東京・神奈川）】
5月25日（土）外苑キャンパス（予定）
　3講時　ガイダンス、自己紹介
　4-5講時　事前学習、ディスカッション

5月26日（日）学外研修
　9：30 ～　鎌倉市鏑木清方記念美術館入り口集合
　午前　鎌倉市鏑木清方記念美術館 見学、ディスカッション
　午後　三溪園見学、ディスカッション
　17：00頃　解散予定

● スクーリングレポート　※以下の課題、書式、文字数などをよく確認の上提出すること。
1．課題　：見学した場所、作品など関心をもったテーマについて論じなさい。その際、以下の条件を満たすこと。
　・「鎌倉・横浜の文化施設を見て」を統一したタイトルとし、テーマに即して

各自副題（サブタイトル）を付ける。
・研修を通じて学んだことについても触れる。
・参照した参考文献を必ず最後に明記する。その際、無記名のHP、URLは不可とする。

2. 書式・文字数：ヨコ書き（テキスト科目のレポートの書式に準ずる）おおむね1,000字程度前後
3. 提出形式（郵送・窓口提出）：スクーリングレポート表紙とレポート本文をホチキス留めしてください（添削指導評価書は不要）。
4. 提出締切日　：b（東京・神奈川）6月12日（水）【必着】※airUから提出する場合は締切日13：00【必着】
5. 提出先　　：郵送提出「通信教育部スクーリングレポート受付係」宛
窓口提出　瓜生山キャンパス人間館中２階 通信教育部事務局窓口
（提出締切日の受付時間内）
※airUから提出する場合は、airUマイページのシラバスで「事後課題」の記載もあわせてご確認ください。

受講にあたって

●持参物
【a日程（京都）】
・筆記用具

【b日程（東京・神奈川）】
・筆記用具
・現地ではかなり歩きますので、歩きやすい服装と靴で参加してください。

●その他
【a日程（京都）】
＜留意事項＞
・受講者および現地の状況等に応じて見学先、行程を調整しますので、詳細は受講許可後の通知をご参照ください。
・2014年度までの開講科目「現地研修a」（S2）と一部内容が重複する場合があります。

＜諸経費＞
学外研修費として4,000円程度が必要です。費用は後日指定口座より引き落とさせていただきます。

【b日程（東京・神奈川）】
＜留意事項＞
・受講者および現地の状況等に応じて見学先、行程を調整しますので、詳細は受講許可後の通知をご参照ください。
・2014年度までの開講科目「現地研修b」（S2）と一部内容が重複する場合があります。

＜学習上の留意点＞
・見学の予習として、見学先のHPなどで下調べすることをおすすめします（予習について、受講生の方には後日詳細をお知らせします）。また、初日は外苑キャンパスで簡単な自己紹介と意見交換を行います。

＜諸経費＞
学外研修費として2,000円程度が必要です。費用は後日指定口座より引き落とさせていただきます。

S	芸術学実践 芸術学ワークショップ	科目コード： 51114
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし	
開講日程・ 開講地・定員	芸術学実践(芸術学ワークショップ(材料))a 開催日程：2019年11月9日（土）～ 2019年11月10日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：40 芸術学実践(芸術学ワークショップ(音))b 開催日程：2019年10月19日（土）～ 2019年10月20日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥10,500、定員：40	
担当者	a：岩泉慧（材料：京都）、b：鈴木昭男*、上村博（音：東京）	

科目概要と到達目標

講義でも鑑賞でもない実践（ワークショップ）の授業です。アーティストの作品制作工程を追体験し、芸術のエッセンスを身体で学びます。到達目標は、これらの体験を通して芸術的感性を磨くとともに、さまざまなジャンルの芸術に対する深い考察力や観察力を高めることです。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に参加しているか
3. レポートで論理的な議論の展開ができているか
4. 授業中の発表やレポートに独自の視点や新しい知見が認められるか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
科目の成績は授業の取り組みと試験により評価します。

予習・復習

事前に、参加する各クラスについての参考文献やシラバスをよく読み、スクーリングに参加してください。ワークショップ後は、三日間で学んだことを今後の学習に活かしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	a：なし b：担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	【a日程（材料：京都）】 芸術色彩研究会 http://geishikiken.info/ 他、授業中に随時紹介します 【b日程（音：東京）】 AkioSuzuki 鈴木昭男 Official Website https://www.akiosuzuki.com/

授業計画

【a日程（材料：京都）】

● スケジュール

11月9日（土）瓜生山キャンパス

第一日　支持体を学ぶ

3講時　本講座を学ぶ意義と講座の全容を紹介し、これから学ぶことを知る

4講時　支持体にジェッソ（ボローニャ石膏、兎膠、胡粉、アクリル）を塗る
（サイジングと発色の関係を最先端の素材と伝統素材、東洋と西洋で俯瞰し、理解する）

5講時　支持体にジェッソ（ボローニャ石膏、兎膠、胡粉、アクリル）を塗る
（サイジングと発色の関係を最先端の素材と伝統素材、東洋と西洋で俯瞰し、理解する）

11月10日（日）瓜生山キャンパス

第二日　展色剤を学ぶ

1講時　古典から現代までの展色剤を科学的に学ぶ

2講時　墨＆硯について
（にじみ、かすれ、ぼかし、など日本独自の曖昧さの魅力を文房四宝から理解する）

3講時　自製絵具を作る
（市販の絵具ではなく絵具を各自が自製することにより歴史に残る）

4講時　自製パネルに自製絵具で絵を描く
卵テンペラ、混合テンペラ、合成樹脂を学ぶ

5講時　まとめ／試験

【b日程（音：東京）】

● 授業内容

サウンド・アーティストの鈴木昭男さんをお招きし、聴覚を用いたワークショップを実施します。「芸術」領域や「感性」の拡張を身をもって経験していただくとともに、複数の参加者がかかわるワークショップという場の特性やその中での芸術家の立ち位置についても注意をしてください。「はだかの耳」をもってきてください（はだかの耳とはジャンルや既にある音楽知識にも捕らわれないという意）。

● スケジュール

10月19日（土） 外苑キャンパス（予定）

3講時　受講生・講師の自己紹介、サウンド・アートの講話「ミニ・演奏」

4講時　「自修イベント」（みちくさ）講座

5講時　「石に聴く」（灯台元暗し）講座

10月20日（日） 外苑キャンパス（予定）

1講時　土笛つくりの実習から音の根源を探る

2講時　同ワークショップ

3講時　「日向ぼっこの空間」（自然に耳を澄ます）

4講時　「点音（おとだて）」（耳の解きほぐし）

5講時　聴取の創造性について語り合い（締めの演奏会）／試験

なお、試験では2日間の授業で得られたことを振り返ってまとめていただきますので、科目の到達目標を意識しつつ授業に臨んでください。

受講にあたって

●持参物
【a日程（材料：京都）】
■必須持参物
・筆記用具（鉛筆必須）
・エプロンまたは作業着
・定規（15㎝～20㎝程度）※片側に金属が付いているものが望ましい
・布きり用ハサミ
・カッター（細目のもの）※30°の刃が望ましい

■お持ちの方
・普段使用している絵筆、書筆、水彩筆または油彩筆（ナイロン筆でも可）
・ペインティングナイフ（樹脂製）
・紙パレット
・ボロ布（ウエス、キッチンペーパーなど）
・墨、硯（お持ちの方のみ。また、お持ちの墨、硯の良し悪しを見ていただきたい方もお持ち下さい）

【b日程（音：東京）】
・スケッチブックと筆記用具（大きさや種類は自由）
・掌（たなごころ）に納まるほどの小石を二つ
・食事用ナイフ、スプーン、ストロー（粘土整形のために使用）
・作品（手のひらサイズの笛）持ち帰り用の新聞紙とビニール袋

●その他
【a日程（材料：京都）】
＜留意事項＞
・参加者数によって授業内容等、若干の変更があることをあらかじめご了承ください。また指導の都合上、定員を減らす場合があります。

【b日程（音：東京）】
＜留意事項＞
・粘土は大学で準備します。
・2014年度までの開講科目「表現演習3」（ST2）と一部内容が重複する場合があります。

S	芸術学I-1 芸術理論：芸術環境を巡る諸問題	科目コード： 51115
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※本科目は本学大学院芸術環境専攻の科目を芸術学コースの学生の方にも開放する形態で開講しています。そのため、授業は大学院の学生と一緒に受講することになります。また、「募集定員」欄に示す数は大学院の学生を含めた数です。受講希望者が定員を超えた場合は授業内容に関した修了研究（大学院生）、卒業研究を予定している学生の受講を優先します。	
開講日程・開講地・定員	芸術学I－1(芸術理論：芸術環境を巡る諸問題) 開催日程：2019年9月28日（土）～ 2019年9月29日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥10,500、定員：50	
担当者	上村博	

科目概要と到達目標

「身体・国家・芸術」
今年度は地域、民族、国家のアイデンティティと芸術を巡る問題を取り上げます。芸術活動には必然的にそれが行われる場所の性格がつきまといます。他方で、意図的に芸術によって土地の性格を色づけようとすることも、また逆に土地によって芸術に味つけをしようとすることも行われています。19世紀のナショナリズムのみならず、近年の地域での芸術祭や文化創生にもかかわる、こうした芸術と土地との結びつきは、実のところ、人間の身体のとらえかたによって大きく関係性が変わってきます。本講義では、身体のはたらきが自己アイデンティティ、地域アイデンティティとどのようにかかわっているのかという問題と、そこで身体の拡張としての芸術がどのような役割を果たしているのかという問題とを、いくつかの歴史的な事例を通じて考察します。
芸術や文化がいかに社会形成に利用されてきたのかについての反省的な認識と、今後それがどのような形で社会に寄与しうるのかについて一定の知見を得ることが目標です。

評価基準と成績評価方法

1. 授業内容（およびそれに連動した課題趣旨）の理解度
2. 文章表現の明瞭さ
3. 授業内成果物で扱った題材についての考察の精度

授業中課題が上記の評価観点全体について十分なものであることを合格の基準とします。
科目の成績は授業への取り組みおよび試験により評価します。

予習・復習

予習として、ふたつの準備作業を行ってください。
1）外国の土地がイラスト、ポスター、絵葉書など、どのような視覚イメージによって表現されているのかを探してください。そして授業時に2点以上、その例となる実物ないしは複製を持ってきてください。
2）郷土を表現する画像、歌詞、詩歌、映像を探し、それらが郷土のどのような要素を特に取り上げているかを考えて、授業時に他の学生に3～4分で紹介できるように準備してきてください。

復習として、授業中に示された作品や著作で関心を持ったものについては、あらためてそれを参照し、芸術と場所との関連性を個々の具体的な例に応じて考察してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	藤原貞朗『オリエンタリストの憂鬱』（めこん、2008年） 岡谷公二『絵画のなかの熱帯：ドラクロワからゴーギャンへ』（平凡社 、2005年） E.サイード（板垣雄三、杉田英明監修、今沢紀子訳）『オリエンタリズム』（平凡社ライブラリー、1993年） リンダ・ノックリン（坂上桂子訳）『絵画の政治学』（彩樹社、1996年） 『美術家たちの「南洋群島」』展覧会図録（東京新聞、2008年） 栗本英世、井野瀬久美恵編『植民地経験―人類学と歴史学からのアプローチ』（人文書院、1999年） B.ノヴァック（黒沢真理子訳）『自然と文化―アメリカの風景と絵画1825-1875』（玉川大学出版部、 2000年） 渡辺裕『歌う国民』（中公新書、2010年）

授業計画

9月28日（土）　外苑キャンパス（予定）
1日目 意匠としての土地、意匠としての芸術
　3講時　導入、「国民の芸術」について
　4講時　意匠としての土地
　5講時　グループワーク（異国の色）

9月29日（日）　外苑キャンパス（予定）
2日目 身体のありかを巡って
　1講時　故郷と夢遊病
　2講時　自己疎外と芸術
　3講時　ふるさとの描き方
　4講時　グループワーク（郷土の記念物）
　5講時　まとめ／試験

なお、試験では授業を受けて受講生それぞれが考えたことをまとめていただきます。授業概要に記された授業の目標を意識するとともに、授業で扱う問題を自分の身の回り（居住地、ゆかりの土地など）に引きつけて考察しつつ受講してください。

受講にあたって

●持参物
・筆記用具
・必要であればペンライトなど（プロジェクター使用時に部屋が暗くなります）

●その他
■授業スケジュールについて
本科目は、教員のその年々の研究成果を反映した講義となっています。その性格上、このシラバスに記載した授業内容から若干変更の可能性があることをご了承ください。変更がある場合は、受講許可後に

別途通知いたします。なお、2014年度まで「特殊講義1～6（芸術環境を巡る諸問題）」として開講していた授業と一部内容が重なります。

■大学院との合同授業について
本授業は大学院の学生と一緒に受講することになりますので、初学者向け科目ではありません。

S	芸術学I-2 芸術理論：芸術学原論（祭礼と感性） 科目コード： 51116
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	なし ※2014年度までに開講の「芸術研究５」（S2）単位修得済みの場合、履修は不可。 ※本科目は本学大学院芸術環境専攻の科目を芸術学コースの学生の方にも開放する形態で開講しています。そのため、授業は大学院の学生と一緒に受講することになります。また、「募集定員」欄に示す数は大学院の学生を含めた数です。受講希望者が定員を超えた場合は授業内容に関した修了研究（大学院生）、卒業研究を予定している学生の受講を優先します。
開講日程・開講地・定員	芸術学Ｉ－2(芸術理論：芸術学原論(祭礼と感性)) 開催日程：2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：50
担当者	梅原賢一郎

科目概要と到達目標

祭りをよく観察すると、そこに、いくつかの基本的な〈宗教的身振り〉と呼べるものがあることに気づく。柳田国男は、祭りには、〈食べる〉ことが不可欠だといったが、〈食べる〉もその一つである。すなわち、食べ物（ご神饌）を神に供え、それを（お下がりとして）また皆で食べる。神人共食といわれるが、そのようにして、神と交通し交感するのである。この講義では、そのような祭りに内在する〈宗教的身振り〉をいくつか抽出し、その先に見える宇宙像や宗教的世界について哲学的に考察する。たとえていえば、「芸術」を遡る思索の旅である。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に参加しているか
3. 試験の答案の文章表記は正しいか
4. 試験の答案で論理的な議論の展開ができているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
科目の成績は授業への取り組みおよび試験により評価します。

予習・復習

柔軟な思考をなによりも求めます。予習は特に必要ありませんが、以下の参考文献に目を通しておくと授業の理解には役立つでしょう。復習としては、授業で語られたことを踏まえて、祭りについて考えてみてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	梅原賢一郎『カミの現象学』（角川書店、2003年）

参考文献・URL	梅原賢一郎『感覚のレッスン』（角川学芸出版、2009年）

授業計画

10月26日（土）　瓜生山キャンパス
3講時　イントロダクション
4講時　食べる神／食べられる神
5講時　元素としての神

10月27日（日）　瓜生山キャンパス
1講時　球体としての神
2講時　憑依する神
3講時　客としての神
4講時　像としての神
5講時　まとめ／試験

受講にあたって

●持参物
筆記用具

●その他
■授業スケジュールについて
本科目は、教員のその年々の研究成果を反映した講義となっています。その性格上、このシラバスに記載した授業内容から若干変更の可能性があることをご了承ください。変更がある場合は、受講許可後に別途通知いたします。

■大学院との合同授業について
本授業は大学院の学生と一緒に受講することになりますので、初学者向け科目ではありません。

S	芸術学I-3 芸術理論：舞踊論	科目コード： 51117
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし	
開講日程・開講地・定員	芸術学I－3(芸術理論：舞踊論) 開催日程：2019年9月21日（土）～ 2019年9月22日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：30	
担当者	中島那奈子	

科目概要と到達目標

「老い」と「舞踊（ダンス）」という活動は、現代の社会に生きる私たちにとってどのような意味を持ち得るのでしょうか。老いについて語ることは欧米文化圏ではしばしば社会的タブーと見なされてきました。とりわけ理想の身体を体現してきた舞踊において「老い」のテーマは、美学的・社会的パラダイムの転換を促すものとなりえます。本講義では主として、老いと踊りというテーマを、芸術や身体、政治を巡る言説を通してどのように考えられるのか、を中心に見ていきます。とくに20世紀後半のポストモダンダンス以降と日本の芸能・芸術の事例と、生政治や美学、グローバリズムをめぐる言説との間を往復しながら、常に動き続ける「私」を位置付けて、新たに捉え直す可能性を模索します。本講義を学ぶことによって関連領域に関する知識を身に付け理解を深めるとともに、生の基本的営みである舞踊を、今の日本の超高齢化社会が直面する老いの問題と重ねあわせて、新たな感じ方・考え方を模索する機会となることを目指します。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に参加しているか
3. 試験で論理的な議論の展開ができているか
4. 試験で独自の視点や発想が認められるか
5. 試験の文章表記は正しいか。引用や書誌情報の明記が正しく行われているか
6. 試験に文献等の情報や資料を活用できているか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準となります。
科目の成績は授業への取り組みおよび試験により評価します。

予習・復習

出来るだけ沢山の舞踊作品を見て、現在様々な地域や社会でおきていることと舞踊を重ねて考える習慣をつけるようにしてください。また、講義の前後にノートや配付資料、参考文献、参考サイト等を参照し、講義内容の十分な把握に努めてください。課題に取り組む際には講義での考察を批判的に見直し、自分の考えを吟味するようにしてください。課題の提出後も次年度以降につながる自主的な学習を継続してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	授業中に担当者作成のプリントを配付します

参考文献・URL	外山紀久子、中島那奈子編『老いと踊り』（勁草書房、2019年） 老いと踊りウェブサイト（http://agingbodyindance.tumblr.com） 京都造形芸術大学「舞台芸術の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点」2017 年度共同研究プロジェクト「老いを巡るダンスドラマトゥルギー」（研究代表者　中島那奈子） 報告サイト（http://www.nanakonakajima.com/rainer/） 中島那奈子「踊る身体と踊りを見る身体の多様化ー老いと踊りをめぐって」（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館編『Who Dance? 振付のアクチュアリティ』、2015年）所収 中島那奈子「老いと踊りとスピリチュアリティ」（鎌田東二編『スピリチュアリティと芸術・芸能』ビイング・ネット・プレス社、2016年）所収

授業計画

9月21日（土）　瓜生山キャンパス
　3講時　イントロダクション　パフォーマティブな老い
　4講時　「ダンサーの老い」
　5講時　イヴォンヌ・レイナーの老い

9月22日（日）　瓜生山キャンパス
　1講時　伝統芸能での老い
　2講時　日本舞踊家の老い
　3講時　大野一雄の老い
　4講時　アーカイブと老い
　5講時　まとめ／試験

受講にあたって

●持参物
筆記用具

S	芸術学I-4 芸術理論：表象行為論	科目コード： 51118
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに開講の「芸術研究1」（S2）単位修得済みの場合、履修は不可。	
開講日程・ 開講地・定員	芸術学I－4(芸術理論：表象行為論) 開催日程：2019年7月6日（土）～ 2019年7月7日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：50	
担当者	田川とも子	

科目概要と到達目標

肉体美を彫刻にする、山を絵に描く、感動を文章にする…。芸術表現とは何かを別の何かで再現すること、すなわち表象（re-presentation）に他なりません。表現（再現）されたものをただ素朴に受け流すのではなく、もっと色んな知を駆使してその受容を楽しむことで、世界はまだ美しく深い奥行きを見せてくれるはずです。そうすれば人生は何倍も豊かで面白いものになるのではないでしょうか。
普段から身近に馴染んでいる日本文化や日本語も、見方を少し変えると深い意味や魅惑や特徴が見えてきます。有名なあの絵画作品も、美術史以外の分野から眺めるとまた新鮮な表情を見せて甘美な感動をくれるかもしれません。このスクーリングでは、美術史と少し違った目線で日本文化と西洋美術を照射します。芸術に対して多角的かつ立体的なアプローチと解釈が可能なことを実感し、思考の筋力を鍛えて高めることが目標となります。講義形式は座学ですが教科書的な史実解説も客観的な情報の羅列もしません。ライブコンサートを楽しむ感覚でご来場ください。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 試験の答案の文章表記は正しいか
3. 試験の答案で論理的な議論の展開ができているか
4. 試験の答案に独自の視点や新しい知見が認められるか
5. 読み手を退屈させないオリジナリティがあるか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
科目の成績は授業への取り組みおよび試験により評価します。

予習・復習

特別な予習は必要ありません。日々、さまざまな作品や書物などに幅広く触れ、思考の筋力を養いましょう。講義は答えを提供するものではなく、「扉」を案内するものです。講義内容をひとつの世界解釈として受容し、扉をご自身で開いて考察することによってはじめて意味をもちます。

テキストと参考文献・URL

テキスト	授業中に担当者手書きの「プログラム」（レジュメ）を配付します

参考文献・URL	特に指定しません

授業計画

7月6日（土）　瓜生山キャンパス
　3講時　ウツとウツツ　　～浸透と凝縮とオタクの日本文化
　4講時　論理よりオモムキ　　～日本語の特質と交差する文様
　5講時　古典が実は最先端　～日本美術の可能性

7月7日（日）　瓜生山キャンパス
　1講時　イシを立てることから　～人体のカタチと芸術のはじまり
　2講時　元気と回帰　～西洋医学-異学的な身体観の変遷
　3講時　正しさと楽しさ　～解剖学的なルネサンス美術と生理学的なバロック美術
　4講時　視覚の視覚　～脳科学の解明と印象派絵画の値打ち
　5講時　補足・総括／試験

受講にあたって

●持参物
・筆記用具
・初心と好奇心と想像力

●その他
＜留意事項＞
・新しいトピックスの追加や、授業スケジュールに掲載された予定順序を変更することがあります。

S	芸術学I-5 芸術理論：視覚文化論	科目コード： 51119
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに開講の「芸術研究9」（S2）単位修得済みの場合、履修は不可。	
開講日程・ 開講地・定員	芸術学I－5(芸術理論：視覚文化論) 開催日程：2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥10,500、定員：50	
担当者	高松麻里	

科目概要と到達目標

視覚文化論とは、私たちを取り巻く様々な視覚イメージがどのように機能し、私たちの文化を構築しているかを考える学問領域です。「見る」という日常的な行為を歴史的・理論的に考察することで、視覚イメージがどのように意味を生じさせ、私たちに「見える」ようになるのかを考えます。考察の対象はいわゆる美術にとどまらず、写真、映画、テレビ、インターネット、マンガ、広告といった視覚を媒介とする文化表象全般です。講義では、このような幅広い視覚イメージを批判的に読み解くための基本的な考え方を概観し、さらに実際に身近な視覚イメージの分析を試みることで「見る」ことと「見える」ことの多層的な理解を目指します。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業内レポートの文章表記は正しいか
3. 授業内レポートで論理的な議論の展開ができているか
4. 授業内レポートに独自の視点や新しい知見が認められるか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
科目の成績は授業への取り組みおよび試験により評価します。

予習・復習

あらかじめ、指定されたテキストの第1章（「カルチャー」とは何か？）、第2章（「ヴィジュアル」とはどういうこか？）、第3章（「ヴィジュアル・カルチャー・スタディーズ」とは何か？）までを通読しておくこと。さらに授業計画のスケジュールにある各講で指定している箇所（第7章「視線、眼差し、監視」など）や２点の配付資料についても目を通しておくこと。受講後は、指定されたテキストの未読部分や、巻末の参考文献を参照し、さらに知見を広げていただきたい。

テキストと参考文献・URL

テキスト	ジョン・A・ウォーカー、サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門：美術史を超えるための方法論』（晃洋書房、2001年、税抜3,200円）

テキスト	＊各自購入。ただし、受講許可後に通信販売のご案内を別途通知することを予定しています。 その他2点の資料を、授業前に送付します。
参考文献・URL	授業中に随時紹介します

授業計画

7月27日（土）　外苑キャンパス（予定）
分析手法の概観
　3講時　視覚文化論とは？その理論的枠組み（序論、第1章～第3章、および第4章）
　4講時　遠近法と近代における視覚中心主義（第2章再読、ジェイ論文）
　5講時　視点と視線〈眼差し〉（第7章）

7月28日（日）　外苑キャンパス（予定）
視覚文化・表象の具体的な分析
　1講時　記号論、イコノロジー、神話作用（第4章再読、第9章）
　2講時　視覚表象におけるリアリティ　（第7章再読）映画 マンガ
　3講時　メタ表象：「見ること」「見られること」の表象（第8章、第10章）
　4講時　「影」の表象（ストイキツァ論文）
　5講時　まとめ・質疑応答／試験

受講にあたって

●持参物
筆記用具、テキスト（事前配付資料含む）

●その他
＜留意事項＞
最後の授業内レポートで、授業をふまえ、任意の視覚文化について分析し、論じてもらうので、どのような視覚表象（美術、写真、映画、テレビ、インターネット、マンガ、広告など）を取り上げるか、あらかじめ考えながら予習、および受講していただきたい。

S	芸術学II-1 芸術史：近現代美術の諸相	科目コード： 51120
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※学部共通専門教育科目の「近現代美術」または「美術史（近現代）1・2」を修得していることが望ましい。 ※本科目は本学大学院芸術環境専攻の科目を芸術学コースの学生の方にも開放する形態で開講しています。そのため、授業は大学院の学生と一緒に受講することになります。また、「募集定員」欄に示す数は大学院の学生を含めた数です。受講希望者が定員を超えた場合は授業内容に関した修了研究（大学院生）、卒業研究を予定している学生の受講を優先します。	
開講日程・ 開講地・定員	芸術学II－1(芸術史：近現代美術の諸相) 開催日程：2019年4月27日（土）～ 2019年4月28日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥10,500、定員：50	
担当者	池野絢子	

科目概要と到達目標

本講義では、20世紀前半のイタリア芸術を対象として、近現代芸術と社会・政治の関係性を考えます。20世紀初頭から第二次世界大戦までのイタリアの前衛芸術は、都市の近代化や二度の大戦を背景として、過去の破壊と伝統の継承という相反する欲求のあいだを揺れ動きました。本講義では、未来派からファシズム時代の諸動向までを対象として、近現代芸術において芸術表現と社会的・文化的条件がいかに関係してきたかを具体的に考察するとともに、その歴史的経緯を正しく理解することを目指します。また、広告や建築、都市計画など、狭義の造形芸術にとどまらず、広い意味での芸術／視覚文化も考察の対象とします。なおこの講義では、講義中に受講生の発言を求めることがあります。受講生には、講義で論じる諸事象についての正確な知識を獲得するだけでなく、自ら主体的に問いを見いだし、考察・分析を試みる姿勢を身に付けることが求められます。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に参加しているか
3. 試験での文章表記は正しいか
4. 試験で論理的な議論の展開ができているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
科目の成績は授業への取り組みと試験の成績により評価します。

予習・復習

イタリア美術についての特別な予備知識は必要ありませんが、概説書などであらかじめ近現代美術の流れを確認してから講義に臨むと、理解がいっそう深まるでしょう。また、復習としては、紹介した参考文献を読むことはもちろんですが、授業中に取りあげた芸術家やその作品を各種カタログ・研究書で調べると、知見がいっそう広がります。美術館や芸術祭等で実際に作品に接することも推奨します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	林洋子編『近現代の芸術史　造形篇Ⅰ　欧米のモダニズムとその後の運動』（藝術学舎、2013年） 井口壽乃、田中正之、村上博哉『西洋美術の歴史8（20世紀　越境する現代美術）』（中央公論新社、2017年） その他は授業中に随時紹介します。

授業計画

4月27日（土）　外苑キャンパス（予定）
3講時　「イタリア」の近代芸術
4講時　未来派①
5講時　未来派②

4月28日（日）　外苑キャンパス（予定）
1講時　第一次世界大戦と芸術①
2講時　第一次世界大戦と芸術②
3講時　芸術とファシズム①
4講時　芸術とファシズム②
5講時　芸術とファシズム③／試験

受講にあたって

●持参物
筆記用具（必要であれば手元用照明をご準備ください）

●その他
■授業スケジュールについて
本科目は、教員のその年々の研究成果を反映した講義となっています。その性格上、このシラバスに記載した授業内容から若干変更の可能性があることをご了承ください。変更がある場合は、受講許可後に別途通知いたします。

■大学院との合同授業について
本授業は大学院の学生と一緒に受講することになりますので、初学者向け科目ではありません。

S	芸術学II-2 芸術史：西洋芸術史の諸問題	科目コード： 51121
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※ 学部共通専門教育科目の「ヨーロッパ美術史」または「美術史（ヨーロッパ）1・2」を修得していることが望ましい。 ※本科目は本学大学院芸術環境専攻の科目を芸術学コースの学生の方にも開放する形態で開講しています。そのため、授業は大学院の学生と一緒に受講することになります。また、「募集定員」欄に示す数は大学院の学生を含めた数です。受講希望者が定員を超えた場合は授業内容に関した修了研究（大学院生）、卒業研究を予定している学生の受講を優先します。	
開講日程・開講地・定員	芸術学II－2(芸術史：西洋芸術史の諸問題) 開催日程：2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：50	
担当者	岡田温司	

科目概要と到達目標

「芸術と精神分析」
芸術作品の創造に無意識はいかにかかわっているのか。また、芸術作品を鑑賞し解釈するうえで精神分析はどこまで有効なのか。フロイトを中心にみなさんと考えてみたい。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に参加しているか
3. 試験の答案で文章表記は正しいか
4. 試験の答案で論理的な議論の展開ができているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
科目の成績は授業への取り組みと授業時試験により総合的に評価します。

予習・復習

講義前に西洋美術に関する書籍をできるだけ読んで予備知識を身につけてください。授業を終えた後は講義ノートをふり返りながら学んだ内容をしっかりと復習して、レポートの作成に向けて準備してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	岡田温司『フロイトのイタリア』（平凡社、2008年）

授業計画

12月21日(土)　瓜生山キャンパス

3講時　フロイト以前――芸術・狂気・夢
4講時　フロイトの精神分析の形成1――イタリア旅行と芸術
5講時　フロイトの精神分析の形成2――イタリア旅行と芸術

12月22日(日)　瓜生山キャンパス
1講時　フロイトによるレオナルド解釈
2講時　フロイトによるミケランジェロ解釈
3講時　レオナルド VS ミケランジェロ
4講時　フロイト以後における芸術と精神分析の関係１
5講時　フロイト以後における芸術と精神分析の関係２／試験

受講にあたって

●持参物
筆記用具、参考文献（購入者）

●その他
■授業スケジュールについて
本科目は、教員のその年々の研究成果を反映した講義となっています。その性格上、このシラバスに記載した授業内容から若干変更の可能性があることをご了承ください。変更がある場合は、受講許可後に別途通知いたします。

■大学院との合同授業について
本授業は大学院の学生と一緒に受講することになりますので、初学者向け科目ではありません。

S	芸術学II-3 芸術史：日本芸術史の諸問題	科目コード： 51122
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※学部共通専門教育科目の「日本美術史」または「美術史（日本）1・2」、「アジア美術史」または「美術史（アジア）1・2」を修得していることが望ましい。 ※本科目は本学大学院芸術環境専攻の科目を芸術学コースの学生の方にも開放する形態で開講しています。そのため、授業は大学院の学生と一緒に受講することになります。また、「募集定員」欄に示す数は大学院の学生を含めた数です。受講希望者が定員を超えた場合は授業内容に関した修了研究（大学院生）、卒業研究を予定している学生の受講を優先します。	
開講日程・開講地・定員	芸術学II－3(芸術史：日本芸術史の諸問題) 開催日程：2019年4月20日（土）～ 2019年4月21日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥10,500、定員：50	
担当者	三上美和	

科目概要と到達目標

日本芸術史の諸問題について、特に近代の芸術の蒐集者（コレクター）、支援者（パトロン）であった原三溪を取り上げ、三溪を手がかりに近代美術史の重要な問題について論じます。三溪は自筆の美術蒐集記録を残しているため、旧蔵美術品が具体的に分かる点で希有な存在といえます。芸術の蒐集者、コレクターについて、日本近代美術史では従来あまり掘り下げられていませんが、三溪を軸に見ていくことで当時の美術を取り巻く様相が明らかになります。明治から昭和初期を中心とした日本近代美術史の流れのなかで、芸術家、蒐集者、支援者、批評家といった多角的な視点を学び、自己の研究における柔軟かつ独特な思考方法を身につけることを到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に参加しているか
3. 試験の答案の文章表記は正しいか
4. 試験の答案で論理的な議論の展開ができているか
5. 試験の答案に独自の視点や新しい知見が認められるか
6. 文献などの情報や資料を活用できているか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと授業時試験により総合的に評価します。

予習・復習

日本美術史の一般的な通史（栗本徳子編 『日本の芸術史造形篇Ⅱ　飾りと遊びの豊かなかたち』 藝術学舎、2013年、林洋子編『近現代の芸術史造形篇Ⅱ　アジア・アフリカと新しい潮流』藝術学舎、2013年、辻惟雄編『カラー版日本美術史』美術出版社、2002年等）の近代の箇所を事前に読んでおくこと。講義のあとは授業の内容をよく振り返ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし（授業中に適宜指示します）
参考文献・URL	田中日佐夫『美術品移動史』（日本経済新聞社出版局、1981年） 日本美術院百年史編纂委員会編『日本美術院百年史』4巻（日本美術院、1994年） 佐藤道信『明治国家と近代日本』（吉川弘文館、1999年） 三上美和『原三溪と日本近代美術』（国書刊行会、2017年）

授業計画

4月20日（土）　外苑キャンパス（予定）
　3講時　原三溪と三溪園
　4講時　古美術の蒐集者として
　5講時　近代美術の蒐集者として

4月21日（日）　外苑キャンパス（予定）
　1講時　近代美術の支援者として（１）
　2講時　近代美術の蒐集者として（２）
　3講時　三溪旧蔵作品の検討
　4講時　次世代の支援者と三溪
　5講時　まとめ／試験

受講にあたって

●持参物
筆記用具

●その他
■授業スケジュールについて
本科目は、教員のその年々の研究成果を反映した講義となっています。その性格上、このシラバスに記載した授業内容と若干変更があることをご了承ください。より正確な授業進行計画は、受講許可後に別途通知いたします。

■大学院との合同授業について
本授業は大学院の学生と一緒に受講することになりますので、初学者向け科目ではありません。

S	芸術学II-4 芸術史：東洋芸術史の諸問題	科目コード： 51123
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※学部共通専門教育科目「日本美術史」または「美術史（日本）1・2」、「アジア美術史」または「美術史（アジア）1・2」を修得していることが望ましい。 ※本科目は本学大学院芸術環境専攻の科目を芸術学コースの学生の方にも開放する形態で開講しています。そのため、授業は大学院の学生と一緒に受講することになります。また、「募集定員」欄に示す数は大学院の学生を含めた数です。受講希望者が定員を超えた場合は授業内容に関した修了研究（大学院生）、卒業研究を予定している学生の受講を優先します。	
開講日程・開講地・定員	芸術学II－4(芸術史：東洋芸術史の諸問題) 開催日程：2019年5月18日（土）～ 2019年5月19日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：50	
担当者	金子典正	

科目概要と到達目標

東洋の芸術史について理解を深めます。とりわけインドから始まる仏教美術史を中心に取り上げ、従来の研究成果を振り返りつつ、その研究方法と今後の可能性について考察します。発掘成果から知られている古代インド・ガンダーラの仏教美術、それらを取り込んで発達した中国の仏教美術、朝鮮半島や中国の美術を受容して育まれた日本の飛鳥～奈良時代の仏教美術のうちから代表的な作例を取り上げて講義を進めます。到達目標は、東洋の芸術に関する基本的な知識を身につけ、東アジアの芸術について理解を深め、研究上の様々な問題を考察する力を養うことです。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解できているか
2. 授業に積極的に取り組んでいるか
3. 授業中の試験にしっかりと答えられているか
4. 授業中の試験の解答に誤字・脱字はないか

以上の評価基準を全体として満たしていることが合格の基準であり、授業中の取り組みと試験の結果により総合的に評価します。

予習・復習

講義前に参考文献にあげた東洋美術に関する書籍をできるだけ読んで予備知識を身につけてください。
授業を終えた後は、講義ノートをふり返りながら学んだ内容をしっかりと復習してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	高浜秀也編『世界美術大全集東洋編1～6』（小学館、1998～2000年）

参考文献・URL	金子典正『アジアの芸術史 造形篇Ⅰ　中国の美術と工芸』『アジアの芸術史 造形篇Ⅱ　朝鮮半島・西アジア・中央アジア・インド』（藝術学舎、2013年）

授業計画

5月18日（土）　瓜生山キャンパス
　3講時　釈尊の生涯について
　4講時　無仏像時代の美術
　5講時　ガンダーラの仏伝図と本生図浮彫

5月19日（日）　瓜生山キャンパス
　1講時　中国早期仏像
　2講時　敦煌莫高窟
　3講時　雲岡石窟
　4講時　龍門石窟
　5講時　授業のふりかえり／試験

受講にあたって

●持参物
なし

●その他
＜留意事項＞
2014年度までの開講科目「特殊講義1～6（東洋芸術史の諸問題）」（S2）と一部内容が重複する場合があります。

■授業スケジュールについて
本科目は、教員のその年々の研究成果を反映した講義となっています。その性格上、このシラバスに記載した授業内容と若干変更があることをご了承ください。より正確な授業進行計画は、受講許可後に別途通知いたします。

■大学院との合同授業について
本授業は大学院の学生と一緒に受講することになりますので、初学者向け科目ではありません。

S	芸術学II-5 芸術史：西洋音楽の諸相	科目コード： 51124
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし	
開講日程・開講地・定員	芸術学II－5(芸術史：西洋音楽の諸相) 開催日程：2019年11月2日（土）～ 2019年11月3日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：50	
担当者	大久保賢	

科目概要と到達目標

この授業ではロマン派の代表的な作曲家の1人、フリデリク・ショパン（1810-49）を取り上げ、彼の音楽、美学とともに、その背景となった音楽史を論じます。有名であるわりには誤解されることの少なくないこの作曲家の実像を探りつつ、そうした作業の面白さと難しさを示せればと思います。到達目標は、次の3つの問題について知識と理解を深め、音楽史の見方を身に付けることです。1）ショパンの音楽とその美学について、2）ショパンの音楽の背景となる音楽史について、3）ショパンの受容史と歴史の批判的な見方について。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解できているか
2. 授業に積極的に取り組んでいるか
3. 試験で適切かつ的確な解答を行っているか

以上の評価基準を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと試験により総合的に評価します。

予習・復習

とくに予習の必要はありませんが、概ね下記の文献を土台にして講義を行いますので、予め目を通しておいていただければ、講義の理解が容易になるでしょう。また、復習にも同書は役立つはずです。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	ジム・サムスン（大久保賢･訳）『ショパン　孤高の創造者』（春秋社、2012年）

授業計画

●スケジュール
11月2日（土）　瓜生山キャンパス
　3講時　作曲家の誕生：ポーランド時代のショパン
　4講時　ショパンの美学
　5講時　ポーランドから外国へ：中期のショパン

11月3日（日）　瓜生山キャンパス
　1講時　ポーランドから外国へ：中期のショパン
　2講時　ショパンと同時代の作曲家たち
　3講時　孤高の境地：後期、晩年のショパン
　4講時　ショパンの受容史
　5講時　まとめ／試験

受講にあたって

●持参物
筆記用具

●その他
＜留意事項＞
必要に応じて楽譜を参照しますが、楽譜を読むのが得意ではない方でも大丈夫です。また、種々の音源も必要に応じて用います。必要な資料は授業開始時に配布します。

S	芸術学III-1 美術資料の読み方：日本・東洋	科目コード： 51125
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし	
開講日程・開講地・定員	芸術学III－1(美術資料の読み方：日本・東洋)a 開催日程：2019年6月8日（土）～ 2019年6月9日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：50 芸術学III－1(美術資料の読み方：日本・東洋)b 開催日程：2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥10,500、定員：50	
担当者	a：金子典正*、生嶋輝美、b：三上美和*、金子典正	

科目概要と到達目標

日本や東洋美術史の研究に不可欠な和文や漢文といったさまざまな種類の美術資料を取りあげ、それらの基本的な読み方を学び、さらにその内容を理解して美術史研究に活用する方法について考察します。到達目標は、さまざまな種類の美術資料に慣れ親しみ、それらを読解する力、書かれた内容について深く考察する力を養うことです。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解できているか
2. 授業に積極的に取り組んでいるか
3. 授業中の試験にしっかりと答えられているか
4. 授業中の試験の解答に誤字・脱字はないか

以上の評価基準を全体として満たしていることが合格の基準であり、授業への取り組みおよび試験により総合的に評価します。

予習・復習

開講前に送付されるテキストを事前によく読んで、分からないところを確認して授業に臨んでください。授業後は、講師の指摘した内容をよく復習し、今後の学習に活かすようにしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	a・b： 担当者作成のテキストを開講前に送付し、授業中にも配付します。
参考文献・URL	a：児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1993年）p.1237～1294「かな編」 大橋一章 『法隆寺・薬師寺・東大寺 ： 論争の歩み』（グラフ社、2006年） b：兼築信行『一週間で読めるくずし字 古今集・新古今集』（淡交社、2006年） 岡倉天心『日本美術史』（平凡社ライブラリー、2001年） 高村光雲『幕末維新懐古談』（岩波文庫、1995年） 『日本近代思想体系』17「美術」（岩波書店、1989年）

参考文献・URL	大橋一章　『法隆寺・薬師寺・東大寺：論争の歩み』（グラフ社、2006年）

授業計画

【a日程（京都）】

● 授業内容

前半の授業は、変体仮名の文献を中心に講じます。変体仮名と呼ばれる多様な仮名文字は、ひろく美術作品・文学作品・歴史資料などに使用されており、日本美術において、作品を深く理解するにはその解読が不可欠です。後半の授業は、古代の漢文を中心に取りあげます。漢文は、東洋美術のみならず日本美術の研究においても欠かせないものであり、どう読み下すか、どう解釈するかが重要なポイントです。

● スケジュール

6月8日（土）　瓜生山キャンパス　　担当者：生嶋輝美
- 3講時　変体仮名とは　美術作品のなかの変体仮名①
- 4講時　美術作品のなかの変体仮名②
- 5講時　美術作品のなかの変体仮名③

6月9日（日）　瓜生山キャンパス
- 1講時　漢文の基本的な訓読法について　　担当者：金子典正
- 2講時　美術作品に関する漢文資料①
- 3講時　美術作品に関する漢文資料②
- 4講時　美術作品に関する漢文資料③
- 5講時　授業のふりかえり／試験

【b日程（東京）】

● 授業内容

前半の授業は、美術史研究に欠かせないくずし字の基礎について、ごく初歩的な知識を確認した上、絵巻や浮世絵などの多様なくずし字を読み、初心者向けの入門書も紹介します。後半の授業は、古代の漢文を中心に取りあげます。東洋美術のみならず日本美術の研究においても欠かせないものであり、どう読み下すか、どう解釈するかが重要なポイントです。

● スケジュール

10月26日（土）　外苑キャンパス（予定）　　担当者：三上美和
- 3講時　くずし字の基礎について
- 4講時　くずし字を読んでみよう①
- 5講時　くずし字を読んでみよう②

10月27日（日）　外苑キャンパス（予定）　　担当者：金子典正
- 1講時　漢文の基本的な訓読法について
- 2講時　美術作品に関する漢文資料①
- 3講時　美術作品に関する漢文資料②
- 4講時　美術作品に関する漢文資料③
- 5講時　授業のふりかえり／試験

受講にあたって

●持参物

事前配付資料、筆記用具

●その他

＜学習上の留意点＞

【a日程（京都）】

・ 講義前に事前送付のテキストや参考文献に目を通しておいてください。とりわけ変体仮名については、美術館・博物館・資料館や図書館で、変体仮名で書かれた作品・資料を意識して見てください（それには「変体仮名」とは何か、を事前に理解しておく必要があります）。

・ 2014年度までの開講科目「文献講読1（和文）」「文献講読2（漢文）」（S2）と一部内容が重複する場合があります。

S	芸術学III-2 美術資料の読み方：西洋	科目コード： 51126
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし	
開講日程・開講地・定員	芸術学III－2(美術資料の読み方：西洋)a 開催日程：2019年10月5日（土）～ 2019年10月6日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：50 芸術学III－2(美術資料の読み方：西洋)b 開催日程：2019年7月20日（土）～ 2019年7月21日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥10,500、定員：50	
担当者	a：小林留美、b：武井美砂	

科目概要と到達目標

西洋美術史研究に不可欠なさまざまな種類の美術資料を取りあげ、それらの基本的な読み方を学び、さらにその内容を理解して美術史研究に活用する方法について考察します。到達目標は、さまざまな種類の美術資料に慣れ親しみ、それらを読解する力、書かれた内容について深く考察する力を養うことです。

評価基準と成績評価方法

1.授業の趣旨を正しく把握・理解できているか
2.授業に積極的に取り組んでいるか
3.授業中の試験にしっかりと答えられているか（英語文献の場合、正しく英文を訳出しているか）
4.授業中の試験の解答に誤字・脱字はないか

以上の評価基準を全体として満たしていることが合格の基準であり、授業中の取り組みと試験により総合的に評価します。

予習・復習

予習として事前にテキストを配付しますので、すべて通読しておいてください。
講義後にノートやテキストを振り返り、その日の内容を整理して復習しておいてください。全講義終了後は、西洋美術史研究を行う際、また造形作品を扱う際に、本授業で学んだ方法論を生かしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	【a日程（京都 ）】 担当者作成のプリントを開講前に配付します。 【b日程（東京 ）】 担当者作成のプリントを開講前に配付します。 Clark, K., Looking at pictures, London, 1960より抜粋したテキストを使用。

参考文献・URL	【a日程（京都）】授業中に随時紹介します 【b日程（東京）】Web Gallery of Art　https://www.wga.hu/

授業計画

【a日程（京都）】

●授業内容

西洋の芸術学研究にとって不可欠な、文献資料を読み解く授業です。まず、イギリスの美術史家であるケネス・クラーク卿の名著Looking at pictures （『絵画の見方』高階秀爾訳、白水社、1977年）のIntroductionの精読・解説を通じて、造形作品の見方の基礎を確認します。次に、西洋近代美術の作家・作品研究に関わる二人の美術批評家・美術史家、クレメント・グリーンバーグとリンダ・ノックリンの英語文献を読み、美術（特に絵画）作品をどのように見、どのように語るかについて、その方法の違いを意識しながら具体的に学びます。最後にテストとして、私が指定する英文文献から課題箇所を皆さんに配付し、翻訳提出していただくこととします。

●スケジュール

10月5日（土）　瓜生山キャンパス
　3講時　Introductionの精読・解説
　4講時　同上
　5講時　美術史の方法論について

10月6日（日）　瓜生山キャンパス
　1講時　グリーンバーグの英語文献講読・解説
　2講時　同上
　3講時　ノックリンの英語文献講読・解説
　4講時　同上
　5講時　授業の振り返りと整理／試験

【b日程（東京）】

● 授業内容

西洋の芸術学研究にとって不可欠な、文献資料を読み解く授業です。まず、イギリスの美術史家であるケネス・クラーク卿の名著Looking at pictures （『絵画の見方』高階秀爾訳、白水社、1977年）のIntroductionの精読・解説を通じて、造形作品の見方の基礎を確認します。次に本授業では19世紀以前のオールドマスターの作品を取り上げ、オーソドックスな作品の見方について引き続きクラーク卿の文献を通じて学びます。最後にテストとして、私が指定する箇所を翻訳提出していただくこととします。

● スケジュール

7月20日（土）　外苑キャンパス（予定）
　3講時　Introductionの精読・解説
　4講時　同上
　5講時　美術史の古典的な方法論について

7月21日（日）　外苑キャンパス（予定）
　1講時　ベラスケス《宮廷の侍女たち》（プラド美術館）の精読・解説
　2講時　同上
　3講時　エル・グレコ《聖衣剥奪》（トレド大聖堂）の精読・解説
　4講時　同上
　5講時　授業の振り返りと整理／試験

受講にあたって

●持参物
【a日程（京都）】
事前配付資料、筆記用具、英和・和英辞典（電子辞書可）

【b日程（東京）】
事前配付資料、筆記用具、英和・和英辞典（電子辞書可）

●その他
＜学習上の留意点＞
【a日程（京都 ）】
・事前に配付されたテキストを通読し、授業に備えてください。
・19世紀後半から20世紀前半にかけての、フランスを中心とする美術の流れを大まかにつかんでおかれると良いでしょう。

【b日程（東京）】
・事前に取り上げる作品について、図版等でよく確認しておかれると良いでしょう。
・2014年度までの開講科目「文献講読3b（英文）」（S2）と一部内容が重複する場合があります。

TR	芸術論I-1 芸術理論	科目コード： 51612
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	梅原賢一郎*、岸本督司、栗原俊秀	

科目概要と到達目標

本科目は日本･西洋の芸術論・文化論に慣れ親しむための入門的な科目です。まず、この授業では古今東西の芸術や文化について論じた著作を実際に読み、一定量の複雑な内容のテキストを精読するための技術と体力を身につけます。また、こうした読解作業のなかから、さまざまな芸術ジャンルの作品を鑑賞する際に必要となる多種多様な知識を学び、豊かな感性を養います。到達目標は、芸術論を理解する能力を修得するとともに、そうした芸術論を批判的に検証し、みずからの見解を明確に論述する力を身につけることです。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 書籍の内容を正しく理解できているか
3. 受講生自身の見解が提示されているか
4. 自分の言葉で具体的に論述できているか
5. 文章表現は正確かどうか、誤字・脱字はないか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題（50%）と単位修得試験（50%）により評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	小田部胤久『西洋美学史』（東京大学出版会、2009年） 佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会、1995年） 当津武彦『美の変貌―西洋美学史への展望』（世界思想社、1988年） 加藤哲弘編『芸術理論古典文献アンソロジー　西洋篇』（藝術学舎、2014年） 宇佐美文理・青木孝夫編『芸術理論古典文献アンソロジー　東洋篇』（藝術学舎、2014年）

レポート課題　　課題コード：11

初回提出物 （一括送付）	1.添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2.レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200文字程度・ヨコ書き 3.宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.添削指導評価書と3.宛名表紙は不要です。
再提出物 （一括送付）	1.再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2.再提出レポート本文 3.前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.再提出用添削指導評価書と3.前回提出レポートは不要です。

課題の内容

古今東西の芸術や文化に関して論じた以下の3つのジャンル〈日本文化論〉、〈美学・芸術論〉、〈デザイン論・近現代芸術論〉に属する9冊から1冊を選び、次の指示にしたがって3,200字程度のレポートを作成してください。選択した著作の中で述べられている芸術や文化に対する考え方、あるいはさまざまな芸術作品にかんする分析や論考について、その内容を整理してまとめ、さらに読書によって気づいた新たな発見やみずからの見解についても論理的に記述してください。わからない事項を調べる方法、難解な文章を読み解く技術を身につけることも課題に含まれます。レポートの冒頭には選択した書籍名を必ず記入すること。

〈日本文化論〉
・岡倉覚三『茶の本』（村岡博訳、岩波文庫、1961年）
・ラフカディオ・ハーン『新編　日本の面影』（池田雅之訳、角川ソフィア文庫、2000年）
・岡本太郎『沖縄文化論』（中公文庫、1996年）

〈美学・芸術論〉
・プラトン『饗宴』（久保勉訳、岩波文庫、1965年）
・岡田暁生『音楽の聴き方―聴く型と趣味を語る言葉―』（中公新書、2009年）
・岡田温司『ヴィーナスの誕生―視覚文化への招待―』（みすず書房、2006年）

〈デザイン論・近現代芸術論〉
・高階秀爾『20世紀美術』（ちくま学芸文庫、1993年）
・柏木博『デザインの教科書』（講談社現代新書、2011年）
・田中純『建築のエロティシズム』（平凡社新書、2011年）

＜留意事項＞
・レポートの末尾には参考文献を記してください。
・書籍は図書館で借りる等して各自で入手してください。

・課題として挙げた書籍には、訳者の異なる別の版が存在するものが一部含まれています。それらを参照することは問題ありませんが、書籍の内容を引用したり要約したりする場合には必ず上記の指定されたもの（内容・ページ数が同一であれば大丈夫です）からお願いします。

TR	芸術論I-3 芸術鑑賞１　日本・東洋	科目コード： 51614
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	三上美和*、金子典正*、吉良智子、濱村繭衣子　ほか	

科目概要と到達目標

本科目は日本・東洋美術に慣れ親しむための入門的な科目です。はじめに、各地の国立美術館や国立博物館、あるいは都道府県立の美術館や博物館で開催されている日本・東洋美術の特別展もしくは常設展に出かけてみましょう。展示されている作品の多くは、写真が展覧会図録や館蔵品図録などに掲載されており、制作者や制作年代などについて少なからず明らかにされています。そうした中から二つあるいは三つ好きな作品を選び、じっくり鑑賞してみましょう。次にレポートを作成します。図書館に足を運んで、美術全集や美術史の概説書などにあたり作品の基本的な情報をまとめ、学術的な情報を得てから図版を改めて観察した際に気づいた新たな発見について記してください。余力がある人はもう一度美術館を訪れて作品をじっくり観察し直してみましょう。到達目標は、個々の作品について知識を深めると共に、作品について学んでからじっくりと作品に向き合うことの大切さを自覚し、また、作品を見る眼や観察力を養うことです。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 作品に関する正しい情報が書かれているか
3. 作品について学んだ後、新たに気づいた発見が記されているか
4. 自分の言葉で具体的に論述できているか
5. 文章表現は正確かどうか、誤字・脱字はないか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題（50%）と単位修得試験（50%）により評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	高浜秀他編『世界美術大全集東洋編１～16』（小学館、1998～2000年） 辻惟雄監修『カラー版日本美術史』（美術出版社、2002年） 栗本徳子編『日本の芸術史 造形篇Ⅰ 信仰、自然との関わりの中で』『日本の芸術

参考文献・URL	史 造形 篇Ⅱ 飾りと遊びの豊かなかたち』（藝術学舎、2013年） 金子典正『アジアの芸術史 造形篇Ⅰ 中国の美術と工芸』『アジアの芸術史 造形篇Ⅱ 朝鮮半島・西アジア・中央アジア・インド』（藝術学舎、2013年）

レポート課題　課題コード：11

初回提出物 （一括送付）	1.添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2.レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200文字程度・ヨコ書き 3.宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.添削指導評価書と3.宛名表紙は不要です。
再提出物 （一括送付）	1.再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2.再提出レポート本文 3.前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.再提出用添削指導評価書と3.前回提出レポートは不要です。

課題の内容

はじめに日本各地の国立美術館や国立博物館、あるいは都道府県立美術館や博物館で開催されている特別展もしくは常設展に出かけて、飛鳥～明治時代までの日本美術または古代から清朝までの東洋美術作品を二つあるいは三つ選んで（彫刻、絵画、工芸など。異なる展覧会から選ぶのも可）じっくり鑑賞してください。その後、図書館でそれぞれの作品に関する基礎的な情報を集めてレポートを作成してください。その際、自分の言葉で作品について記述し、実際に作品を観察して気づいたこと、作品について調べたこと、そうした一連の作業から得た新たな発見について記してください。

＜留意事項＞
・作品をみた日時、美術館等の名称、展覧会名を必ず本文中に記してください。
・レポートの末尾には参考文献を記し、作品の図版のコピー（カラー・白黒どちらも可）を添付してください。

TR	芸術論I-4 芸術鑑賞2　西洋	科目コード： 51615
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	池野絢子*、河田淳、巖谷睦月、ほか	

科目概要と到達目標

本科目は西洋美術に慣れ親しむための入門的な科目です。はじめに、各地の国立美術館や国立博物館、あるいは都道府県立の美術館や博物館で開催されている西洋美術の特別展もしくは常設展に出かけてみましょう。展示されている作品の多くは、写真が展覧会図録や館蔵品図録などに掲載されており、制作者や制作年代などについて少なからず明らかにされています。そうした中から好きな作品を二つあるいは三つ選び、じっくり鑑賞してみましょう。次にレポートを作成します。図書館に足を運んで、美術全集や美術史の概説書などにあたり作品の基本的な情報をまとめ、学術的な情報を得てから図版を改めて観察した際に気づいた新たな発見について記してください。余力がある人はもう一度美術館を訪れて作品をじっくり観察し直してみましょう。到達目標は、個々の作品について知識を深めると共に、作品について学んでからじっくりと作品に向き合うことの大切さを自覚し、また、作品を見る眼や観察力を養うことです。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 作品に関する正しい情報が書かれているか
3. 作品について学んだ後、新たに気づいた発見が記されているか
4. 自分の言葉で具体的に論述できているか
5. 文章表現は正確かどうか、誤字・脱字はないか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題（50%）と単位修得試験（50%）により評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	水野千依編『西洋の芸術史　造形篇Ⅰ　古代から初期ルネサンスまで』『西洋の芸術史　造形篇Ⅱ　盛期ルネサンスから十九世紀末まで』（藝術学舎、2013年） 高階秀爾監修『カラー版　西洋美術史』（美術出版社、1990年）

参考文献・URL	青柳正規他『西洋美術館』（小学館、1999年） 青柳正規他編『世界美術大全集　西洋編1～28』（小学館、1992～1997年） 千足信行・林綾野『作家別　あの名画に会える美術館ガイド・西洋絵画篇』（講談社、 2012年） 千速敏男『日本で見られる西洋名画の傑作Best100』（日経BP社、2014年）

レポート課題　　課題コード：11

初回提出物 （一括送付）	1.添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2.レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200文字程度・ヨコ書き 3.宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.添削指導評価書と3.宛名表紙は不要です。
再提出物 （一括送付）	1.再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2.再提出レポート本文 3.前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.再提出用添削指導評価書と3.前回提出レポートは不要です。

課題の内容

まず国内各地の国立美術館や国立博物館、あるいは都道府県立美術館や博物館で開催されている特別展もしくは常設展に出かけて、古代ギリシア～20世紀までの西洋美術の作品を二つあるいは三つ選んで（彫刻、絵画、工芸など）じっくり鑑賞してください。その後、図書館でそれぞれの作品に関する基礎的な情報を集めてレポートを作成してください。その際、自分の言葉で作品について記述し、実際に作品を観察して気づいたこと、作品について調べたこと、そうした一連の作業から得た新たな発見について記してください。

＜留意事項＞
・作品をみた日時、美術館等の名称、展覧会名を必ず本文中に記してください。同一の展覧会から複数作品を選んでも、別々の展覧会で見た作品を選んでも構いません。
・レポートの末尾には参考文献を記し、作品の図版のコピー（カラー・白黒どちらも可）を必ず添付してください。
・西洋美術の文脈で考察可能であるならば、非西洋出身の芸術家が制作した作品を取り上げてもかまいません。

TR	芸術論I-5 美術館・博物館の教育普及	科目コード： 51616

配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。
課題数	1
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。
単位修得試験	有
担当者	三上美和*、奥西麻由子、吉良智子、濱村繭衣子　ほか

科目概要と到達目標

本科目は、美術館や博物館の教育普及について、理論と実践を学ぶことを目的とします。具体的には、美術館や博物館の教育普及活動（ワークショップ、講演会、ギャラリートーク等）に参加し、その体験を踏まえて参考文献を読み、レポートを作成します。美術館、博物館の教育普及の果たす役割は多様化し、その重要性はますます大きくなっています。本科目の到達目標は、そうした美術館・博物館の教育普及活動の理念や目的を知り、さらに実際の活動を体験することで、美術館・博物館の教育普及活動について多様な視点から主体的に考える力をつけることです。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 参加した活動に関する正しい情報が書かれているか
3. 参加した活動について学んだ後、新たに気づいた発見が記されているか
4. 自分の言葉で具体的に論述できているか
5. 文章表現は正確かどうか、誤字・脱字はないか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題（50%）と単位修得試験（50%）により評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	伊藤寿朗『市民のなかの博物館』（吉川弘文館、1993年） 小笠原喜康、並木美砂子、矢島國雄編『博物館教育論』（ぎょうせい、2012年） 小笠原喜康、チルドレンズ・ミュージアム研究会編『博物館の学びをつくりだす その実践へのアドバイス』（ぎょうせい、2006年） 公益財団法人日本博物館協会編『子どもとミュージアム―学校で使えるミュージアム活用ガイド』（ぎょうせい、2013年）

レポート課題　　課題コード：11

初回提出物 （一括送付）	1.添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2.レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200文字程度・ヨコ書き 3.宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、 返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.添削指導評価書と3.宛名表紙は 不要です。
再提出物 （一括送付）	1.再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を 記入） 2.再提出レポート本文 3.前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート 本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.再提出用添削指導評価書と 3.前回提出レポートは不要です。

課題の内容

課題は以下のふたつです。指示に従って両方の課題に答えてください。全体で合計3,200字程度のレポートを作成してください。

①【美術館、博物館で行われている教育普及活動に参加する】
美術館や博物館の開催しているギャラリートーク、ワークショップ、講演会などの教育普及活動に、観客の一人として参加してください。
・撮影や録音などを行いたい場合は、必ず事前に主催者に許可を取るなど、御迷惑にならないよう各自責任を持って対応しましょう。

②【参考文献から一冊選び、要旨をまとめた上、①で経験した教育普及活動について考察する】
美術館、博物館における教育普及活動について書かれたシラバスの参考文献から1冊選び、全体の要旨をまとめた上、そこで述べられている教育普及に対する考え方、普及活動の内容を簡潔に記述してください。
それから、文献の内容と自分で実地調査した教育普及活動とを比較し、参加した教育普及活動の意義と課題等について考えたことを述べてください。

＜留意事項＞
・参加した活動の「開催場所、日時、所要時間、実践者、対象年齢、参加人数」について、出来るだけ詳しくレポートの冒頭に記載してください。
・レポートの末尾には参考文献を記してください。
・書籍は図書館で借りる等、各自で入手してください。

TR	芸術学演習I-2 美術批評	科目コード： 51619
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「表現演習1」（T4）単位修得済みの場合、履修は不可。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	田川とも子	

科目概要と到達目標

美術批評文による美術へのアプローチについて考え、その可能性を探る科目です。
芸術作品をめぐる言説は多種多様に身の周りに溢れています。書籍化されている美術論、展覧会のカタログのなかの解説、雑誌や新聞などに掲載されている作品紹介や作家論、展覧会評や美術コラムなど、文体もスタイルも目的もさまざまです。この科目では、美術作品や作家、そして展覧会をめぐる言説に着目し、どのような美術批評方法がベストであるのか、それが作家や作品や受容者にとってどんな意味を持つのか等を考察します。「芸術なんて人それぞれにただ感じればいい」という根強い思い込みを脱し、言葉によって論理的に展開すること。つまり、美術批評という創造的な分野に接し、それを読み解く力を養い、ひいてはみなさんご自身が批評的なまなざしをもって美術に対峙するスキルを鍛えることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の趣旨を正しく理解し、応答できているかどうか
2. 文章内容が、客観的学術性に富み、なおかつオリジナリティがあるものかどうか
3. 読み手を退屈させることなく、有益な新しい知見をもたらすものであるかどうか
4. 文章表記が正確で、読み手に負荷を与えない読みやすいものであるか
5. 他者の言説を引用あるいは援用する際は、その旨の説明や出典の明記がきちんと行われているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
本科目の成績評価は課題と試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	美術関係書の他に、新聞や雑誌の美術記事やコラム、展評などを日頃からチェックしておくことをおすすめする。

レポート課題　　課題コード：11

初回提出物 （一括送付）	1.添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2.レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200文字程度・ヨコ書き 3.宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.添削指導評価書と3.宛名表紙は不要です。
再提出物 （一括送付）	1.再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2.再提出レポート本文 3.前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.再提出用添削指導評価書と3.前回提出レポートは不要です。

課題の内容

ー美術批評文を批評するー

「美術批評文の批評文」を書いてください。
まず、美術の展覧会に関する批評文を新聞や雑誌などから適宜選び、その批評方法やスタイルを観察し、分析しましょう。
そして、その批評文を検証しながら、どのような展覧会評が有益であり良質であるのかを考察して論じてください。そう考える根拠をきちんと示すようにしてください。

対象とした記事のコピーなどを必ず添付してください。（WEB上の記事の場合は書き手の固有名やスタンスが明らかなものを選択してください。）
対象として選んだ批評文を吟味し、あるいは複数の記事を比較検証しながら、その批評文の長所短所などを考えてみましょう。作品と作者と受容者の関係はどうあるべきかなどを考えながらすすめてみましょう。自身で工夫してタイトルをつけてください。
当該展覧会自体を訪れることは必須条件ではありませんが、可能なら実際にその展覧会をご自身で鑑賞、体感されるとよいと思います。
演劇評や舞台批評を選ばれてもかまいません。同じ要領で論じてください。

※airUから提出する場合は対象とした記事のスキャンや写真で撮影したものを必ず添付してください。

TR	芸術学資料論Ⅰ-1 資料の講読：日本・東洋	科目コード： 51621
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	金子典正*、三上美和*、生嶋輝美	

科目概要と到達目標

日本・東洋の芸術学研究にとって欠かせない変体仮名や漢文の資料を読み解く科目です。芸術学や美術史学の研究では作品の造形的特徴にもとづく様式論のみならず、さまざまな資料に着目して研究を進め、そうした資料から得られた情報によって研究が大きく進展することはよくあります。本科目は、基本的な資料に慣れ親しみ、その意味や内容を読み解きます。到達目標は、資料を正しく読解する力、その内容について理解を深める力を養うことです。また、そのノウハウを自身の研究に活かすことです。

評価基準と成績評価方法

1.課題の趣旨を正しく把握・理解しているか
2.課題の設問に対して正確に解答しているか
3.美術資料の内容を正しく読解できているか
4.美術資料の内容を正しく字母化・翻字または読み下しているか
5.美術資料の内容を正しく現代語訳できているか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題（50％）と単位修得試験（50％）により評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『芸術学資料論　資料集1』 ※airUシラバスの「教材提供」ページからダウンロードもしくは『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1993年）p.1237～1294「かな編」 兼築信行『一週間で読めるくずし字 古今集・新古今集』（淡交社、2006年） 奥平卓『岩波ジュニア新書147 漢文の読み方』（岩波書店、1988年） 田部井文雄『大修館漢文学習ハンドブック』（大修館書店、1995年） 『日本美術全集』全20巻（小学館、2013～2016年）

参考文献・URL	『奈良六大寺大観』全14巻（岩波書店、2011年）

レポート課題　課題コード：11

初回提出物 （一括送付）	1.添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2.レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200文字程度・ヨコ書き 3.宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、 返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.添削指導評価書と3.宛名表紙は 不要です。
再提出物 （一括送付）	1.再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を 記入） 2.再提出レポート本文 3.前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート 本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.再提出用添削指導評価書と 3.前回提出レポートは不要です。

課題の内容

設問１（全体で1600字程度）テキストp.1からp.3（初段、第27段、第5段）の変体仮名の元となった漢字（字母）を書き、それを現行の平仮名に変換（翻字）して記し、さらにp.1（初段）とp.3（第5段）の現代語訳を記しなさい。

設問２（全体で1600字程度）テキストp.4の漢文のうち①『七大寺日記』７行目～10行目（「西金堂～可見、」）および②『七大寺巡礼私記』全文の読み下し文を記し、さらに両者の記述から分かる西金堂の仏像等の安置状況について現代語で記しなさい。

《留意事項》
○変体仮名の〔字母〕〔翻字〕及び〔現代語訳〕の作成にあたって
段ごとに最初に〔字母〕を記し、次に〔翻字〕を、続いて初段と第5段の〔現代語訳〕を記してください。
○漢文の〔読み下し文〕と〔現代語〕の作成にあたって
最初に①②の〔読み下し文〕を記し、次に〔現代語〕で西金堂内の様子を記してください。
指定箇所に含まれる旧字や異体字は、そのまま記しても常用漢字に直しても構いません。airUから課題を提出する際に文字が変換できない場合は当該箇所に「●」を使用してください。
○文字数について
設問１、設問２それぞれ全体で1,600字程度で作成してください。

＜設問２一部訂正　2019/6/19＞

TR	芸術学資料論Ⅰ-2 資料の講読：西洋	科目コード： 51622
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	※コース専門教育科目「芸術学Ⅲ-2（美術資料の読み方：西洋）」を修得していることが望ましい。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	池野絢子*、小林留美、武井美砂	

科目概要と到達目標

西洋の芸術学研究にとって欠かせない資料を読み解く科目です。芸術学や美術史学の研究では作品の造形的特徴にもとづく様式論のみならず、さまざまな資料に着目して研究を進める必要があります。また、そうした資料から得られた情報によって研究が大きく進展することがよくあります。本科目では、芸術学研究の基礎的な英語資料に慣れ親しみ、その意味や内容を読み解きます。まず指定の教材Kenneth Clark, Looking at picturesのなかの2つの章を、辞書を使いながら全体を読んでみましょう。次に、課題にしたがって、該当箇所の訳文を作りましょう。
到達目標は、資料を正しく読解する力、芸術作品の見方について理解を深める力を養うことです。また、そのノウハウを自身の研究に活かすことを目指します。

評価基準と成績評価方法

1.課題の趣旨を正しく把握・理解しているか
2.課題の設問に対して正確に解答しているか
3.美術資料の内容を正しく読解できているか
4.美術資料の内容を正しく翻訳しているか
5.文章表現は正確かどうか、誤字・脱字はないか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題（50%）と単位修得試験（50%）により評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『芸術学資料論　資料集2』 ※airUシラバスの「教材提供」ページからダウンロードもしくは『学習ガイド』の「テキスト配本」の項を確認のうえ、巻末書式の「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	『世界美術大全集〈西洋編〉第14巻　北方ルネサンス』（小学館、1995年）

参考文献・URL	『世界美術大全集〈西洋編〉第23巻　後期印象派時代』（小学館、1995年） Web Gallery of Art：https://www.wga.hu/indexl.html

レポート課題　課題コード：11

初回提出物 （一括送付）	1.添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2.レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200文字程度・ヨコ書き 3.宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、 返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.添削指導評価書と3.宛名表紙は 不要です。
再提出物 （一括送付）	1.再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を 記入） 2.再提出レポート本文 3.前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート 本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1.再提出用添削指導評価書と 3.前回提出レポートは不要です。

課題の内容

問1　Rogier van der Weyden,”The Descent from the Cross”の章を読み、次の課題に答えてください 。

①本作品について筆者が「最初の印象」を記述している、43頁１行目から13行目までを理解し、600字程度に和訳してください。

②本作品について筆者の「作品記述と作品比較」である49頁3行目から28行目までを理解し、1000字程度で和訳してください

問2　Seurat,”Une baignade, Asnières”の章を読み、次の課題に答えてください 。

①本作品について筆者が「最初の印象」を記述している、133頁9行目のBut it happens...から同頁最後までを、600字程度で和訳してください

②本作品について筆者の「検討後の発見」とみなされる、138頁20行目から139頁18行目までを、1,000字程度で和訳してください。